

新基本計画における指標設定について（案）

1. 基本計画における指標設定の経緯

指標数	指標種類	目標値	改善事項
(前) 後期 基本計画 2011－2015	1 施策に対し 1 ～ 4 指標 成果指標 (活動指標に近い指標も混在)	・ 数値目標 ・ 方向性 (矢印 (↗、→、↘))	
前期基本計画 2016－2021	1 施策に対し 1 ～ 3 指標 施策の達成度をはかる指標 (成果指標・活動指標が混在)	・ 数値目標	・ 目標値を定量的要素 (数値) に限定
後期基本計画 2022－2024	1 施策に対し 2 指標 施策の達成状況を測る 参考指標 (成果指標と活動指標を各 1 つ)	・ 数値目標 ※指標検討時に、定性的 評価の視点を抽出	・ 成果指標、活動指標の 定義を明確化 ・ 定性的評価の視点追加 (数値のみでは成果を測 るに不十分なため) ・ 経年変化を把握できな い指標の整理 ・ 目標数値の適正化

2. 指標設定の課題と新計画の方向性＜達成度を測るための要素＞

現計画		現計画の課題	新計画の方向性
定量的評価	1 施策に対し 成果指標と活動指標 を各々 1 つ設定 * 概ね1～2つの「目指すべきまちの姿」「取組方針」に対応	【成果指標】 - 成果指標一つでは施策の一面しか観測できず、適切な成果測定、進捗管理、評価につながらない。 - 約 6 割の施策が区民アンケートの回答を成果指標に設定しているが、区民アンケートの回答が施策の効果を的確に表していないものもある。 (区民アンケートを成果指標に設定している施策 40／68施策、58.8%) 【活動指標】 - 活動指標は一つの事業等の活動量に留まるものが多く、施策の範囲に対し指標で表す効果が小さい。	- 指標数は「目指すべきまちの姿」「取組方針」の数に概ね対応した数を設定するため、2つとする。 - 適正な評価につなげるため、活動指標を極力避け、成果指標を2つとする。 - 区民アンケートの指標は1つまでとする。  ● 1つの施策に対し、原則2つの成果指標を設定
定性的評価	指標設定時に 定性的評価の視点を 抽出	定性的評価の定義や記載ルールが具体化されていない。	定性的評価は客観的な数値等で表せない。  ● 定性的評価の記載ルールを統一し、引き続き評価の視点を抽出